

耐震強度検討書(アンカーボルト, 設計用水平震度Kh=1.0)

1. 機種 =
 2. 形名 =

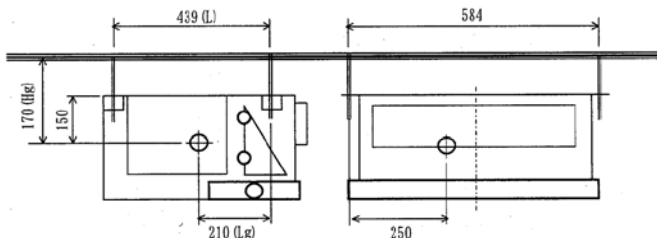
3. 機器諸元(図1参照)

(1)機器質量(運転質量) $W =$ kg
 (2)アンカーボルト
 ①総本数 $N =$ 本
 ②サイズ・形状 $M =$ 形
 ③1本当たりの軸断面積(呼径による断面積) $A =$ mm² = m²
 ④機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルトの総本数 $N_t =$ 本
 (3)据付面より機器重心までの高さ $H_g =$ mm = m
 (4)検討する方向からみたボルトスパン $L =$ mm = m
 (5)検討する方向からみたボルト中心から機器重心までの距離 $L_g =$ mm ($L_g \leq L/2$) = m

4. 検討計算(各項の小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

(1)設計用水平震度 $K_h =$
 (2)設計用鉛直震度 $K_v = K_h / 2 =$
 (3)設計用水平地震力 $F_h = K_h \cdot W \cdot 9.8 =$ N
 (4)設計用鉛直地震力 $F_v = K_v \cdot W \cdot 9.8 =$ N
 (5)アンカーボルトの引抜力 $R_b = \frac{F_h \cdot H_g + (W \cdot 9.8 + F_v) \cdot (L - L_g)}{L \cdot N_t} =$ N
 (6)アンカーボルトのせん断力 $Q = F_h / N =$ N
 (7)アンカーボルトに生ずる応力度
 ①引張応力度 $\sigma = R_b / A =$ MPa < $f_t = 176.4$ MPa
 ②せん断応力度 $\tau = Q / A =$ MPa < $f_s = 132.3$ MPa
 ③引張とせん断を同時に受ける場合 $f_{ts} = 1.4f_t - 1.6\tau =$ MPa
 $\sigma =$ MPa < $f_{ts} =$ MPa
 (8)アンカーボルトの施工法
 ①アンカーボルトの施工法 =
 ②コンクリートの厚さ = mm = m
 ③ボルトの埋込長さ = mm = m
 ④許容引抜加重 $T_a =$ N > $R_b =$ N

以上の検討結果よりアンカーボルトは十分な強度を有する。
 本検討書はアンカーボルトについての強度検討書であり、製品の耐震強度を保証するものではありません。



本図は左配管を示します(PEFY-P・ML)。右配管(PEFY-P・ML-R)は吹出口中央で対象となります。

三菱電機株式会社	作成日	2018/10/15	仕様書番号	WYNB1-4121	副番	-
----------	-----	------------	-------	------------	----	---

耐震強度検討書(アンカーボルト, 設計用水平震度Kh=2.0)

1. 機種 =

2. 形名 =

3. 機器諸元(図1参照)

- (1)機器質量(運転質量) W = kg
- (2)アンカーボルト
 - ①総本数 N = 本
 - ②サイズ・形状 M = 形
 - ③1本当たりの軸断面積(呼径による断面積) A = mm² = × 10⁻⁶ m²
 - ④機器転倒を考えた場合の引張りを受ける片側のアンカーボルトの総本数 Nt = 本
- (3)据付面より機器重心までの高さ Hg = mm = m
- (4)検討する方向からみたボルトスパン L = mm = m
- (5)検討する方向からみたボルト中心から機器重心までの距離 Lg = mm (Lg ≤ L/2) = m

4. 検討計算(各項の小数点以下2桁目を四捨五入して算出)

- (1)設計用水平震度 Kh =
- (2)設計用鉛直震度 Kv = Kh / 2 =
- (3)設計用水平地震力 Fh = Kh · W · 9.8 = N
- (4)設計用鉛直地震力 Fv = Kv · W · 9.8 = N
- (5)アンカーボルトの引抜力 Rb = $\frac{Fh \cdot Hg + (W \cdot 9.8 + Fv) \cdot (L - Lg)}{L \cdot Nt}$ = N
- (6)アンカーボルトのせん断力 Q = Fh / N = N
- (7)アンカーボルトに生ずる応力度
 - ①引張応力度 σ = Rb / A = MPa < ft = 176.4 MPa
 - ②せん断応力度 τ = Q / A = MPa < fs = 132.3 MPa
 - ③引張とせん断を同時に受ける場合 fts = 1.4ft - 1.6τ = MPa
σ = MPa < fts = MPa
- (8)アンカーボルトの施工法
 - ①アンカーボルトの施工法 =
 - ②コンクリートの厚さ = mm = m
 - ③ボルトの埋込長さ = mm = m
 - ④許容引抜加重 Ta = N > Rb = N

以上の検討結果よりアンカーボルトは十分な強度を有する。
 本検討書はアンカーボルトについての強度検討書であり、製品の耐震強度を保証するものではありません。

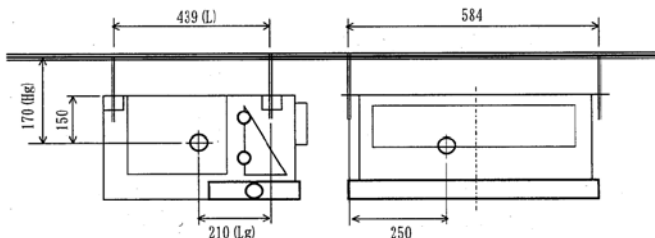


図1

本図は左配管を示します(PEFY-P・ML)。右配管(PEFY-P・ML-R)は吹出口中央で対象となります。

三菱電機株式会社	作成日	2018/10/15	仕様書番号	WYNB1-4122	副番	A
----------	-----	------------	-------	------------	----	---